

## 令和3年度 第1回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：令和3年6月1日（火）15:30～18:00
2. 場 所：WEB 会議（国立研究開発法人日本医療研究開発機構 201 会議室）

### 3. 出席者：

（委 員）

近藤議長、上村委員、喜連川委員、鹿野委員、昌子委員、  
千葉委員、米田委員

（事務局）

三島理事長、城理事、真先執行役、難波統括役、阿蘇経営企画部長、  
橋本総務部長、藤本経理部長、岩本研究開発統括推進室長、松澤研究  
公正・業務推進部長、塩見実用化推進部長、野田国際戦略推進部長、  
丈達創薬事業部長、竹上医療機器・ヘルスケア事業部長、渡辺再生・  
細胞医療・遺伝子治療事業部長、水野ゲノム・データ基盤事業部長、  
日野原疾患基礎研究事業部長、宮川シーズ開発・研究基盤事業部長、  
町田革新基盤創成事業部長、黒木研究公正・業務推進部参事役、釜井  
研究開発統括推進室次長、須藤経営企画部次長、矢野医療機器・ヘル  
スケア事業部医療機器研究開発課長

### 4. 議事

1. AMEDの自己評価（令和2年度）について
2. その他

### 5. 議事の概要

事務局より資料1から参考資料5を基に説明を行った。  
委員からは、以下のようなコメントがあった。

- AMEDが第2期を迎え、データ利活用推進基盤の構築を目指す「三島イニシアティブ」を打ち出すなど、理事長のリーダーシップの下に織一体となった業務運営がなされており評価できる。
- 評価の考え方について、今までは独立的だった領域がクロスオーバーして縦・横の関係が非常にわかりやすく、納得性の高いものであり適切である。  
また、モダリティ別のプロジェクト遂行においてはプロジェクト間の連携が不十分となることが懸念としてあったが、マネジメント創意工夫という評価軸が取り入れられたことでそのマイナス面をカバーできるので適切である。

- 第2期の1年目においては、モダリティ別の6つの統合プロジェクトへの再編を踏まえた新たな体制を着実に推進するだけでなく、新型コロナウイルス感染症への対応もしっかりと取り組まれており評価に値する。  
また、基礎から実用化へと一貫した支援を常に意識できているところは非常に評価したい。
- 新たに各疾患領域に深い知見等を有する疾患領域コーディネーター（DC）を設置し、各 PD/PS/PO とコミュニケーションをとりながら進めるという方針は評価できる。一方で、より効果的に DC の機能を発揮させるためには、個別の研究課題レベルで関与していく必要があり、DC をサポートする仕組みが望まれる。
- 研究データの基盤整備は非常に困難を伴うものであり簡単にはいかないものであるが、「AMED 研究データ利活用に係るガイドライン」を作成するなど、このコロナ禍であっても着実に大きな一歩を踏み出しており評価できる。
- 情報発信については、個別具体のテーマで理事長による記者会見やコロナ特設サイトによる一元的な情報発信が行われており、国民目線でわかりやすい。このような取り組みは非常に評価できる。
- 研究成果の評価指標として、論文掲載のみならず、その研究成果の将来的な価値など、様々な観点を評価指標に取り入れていく検討も必要である。
- モダリティ別にプロジェクトが管理されている中で、DC の配置等の工夫は行われている。他方、第2期の体制において、機構全体として機能を最大化し、様々な研究分野で開発途中に取りこぼされることなく、また、研究成果を他の研究分野へ応用展開することも念頭に置きながら基礎から実用化へつなげるためには、事業間の連携強化や課題・研究者への丁寧なフォローアップ体制が求められる。
- 若手研究者の育成や、研究早期の段階からの有用な研究開発課題をより適切に採択していくためには、評価者の役割は非常に重要であるから、評価に求められる視点を明確にすることや評価者を適切に評価していくことが求められる。
- 研究成果のデータマネジメントを推進していく観点から、研究者にデータマネジメントプランの提出を求めているが、その活用方法や意義を具体的に

説明し研究者に理解させ、どのデータが提出対象なのか等を把握させておく必要がある。

- イノベーションな製品の実用化までのそれぞれの過程における評価手法を、企業やアカデミアから情報収集を行い、厚生労働省、PMDA といった規制当局とも連携しながら評価ガイドラインとして確立することが、パブリッシングな製品の創出に非常に役立つと考える。
- COVID-19 への対応において、日本のワクチン・治療薬開発が遅れているという現状を踏まえ、平時から次の感染症に備えるため、臨床現場における有用な知見、国内外の研究動向を把握し、長期的視点をもって研究開発の支援を行うなど AMED の機能強化が求められる。
- COVID-19 関連の課題は各研究が進捗していることを受けて、集約・連携により効率化・重点化を図ることが望ましい。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。